

わかやま

教える 育む 学び合う

少子化で担ぎ手が減り、軽トラで運ばれるようになった湯浅の願国神社(長尾常民宮司)例大祭の本みこしを、人の手で担がれる姿で復活させた羽衣国際大(堺市)の学生が今月18日、今年も秋の例大祭に参加した。地域と大学の連携が地域を活性づけ、学生にとっては実体験を通じた貴重な学びの場になっている。

毎年この日にある例

県は2014年から、学生の協力を得て

湯浅でみこしの担ぎ手に



願国神社の本みこしを担ぐ大学生たち
—湯浅町提供

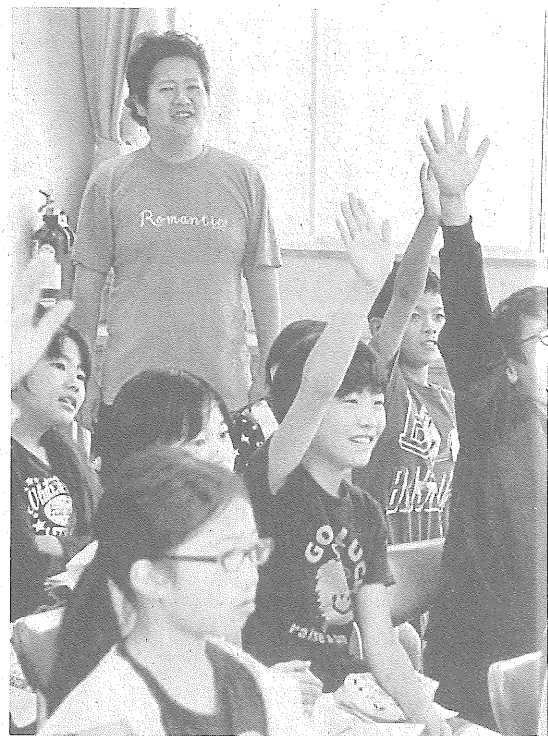
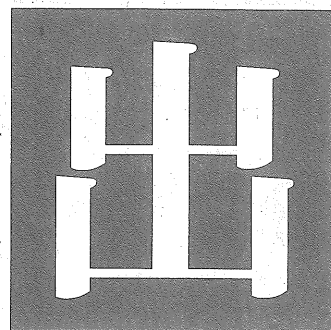
大阪・羽衣国際大の学生ら

町と羽衣大は協定を締結。みこしの担ぎ手不足を知った大学側は、同春秋の例大祭から参加し、学生が本みこしを担ぐようになった。今年も、中国やベトナムなどの留学生を含む羽衣大観光コースの学生約20人が参加。港町の同町にちなんで魚などをモチーフにした青とオレンジの法被をはおって、交代しながら本みこしを担ぎ、町内を回った。1年の小西晃弘さん(19)は「沿道からも笑顔で『わっしょい』の声が上がり、一体感が生まれてうれしかった」と振り返る。だんじりの経験のある学生もおり、長尾宮司も「にぎやかで活気づいた姿に神様も喜んでくれるはず」と話す。

羽衣大の担当者は「将来的には町から出て行った若者が祭りの時には戻ってくるなど、地元の担ぎ手が増えるのが本当の地域活性化」とし、学生の活動がそのきっかけとなるよう期待している。

【成田有佳】

軽トラ運搬 人手に戻す



クイズ形式の出前授業に手を挙げ

日、児童・生徒が講師の職場を訪れて職業体験するという二段構えが一般的だ。記者も一社会人だから、講師に招かれるケースが少なくない。

大阪府松原市立松原中学校(同市新室)では7日、2年生の「プロからの聞き取り学習」があり、大阪本社編集局の堂馬隆之記者が7職種の社会人の一人として講師を務めた。事前に生徒に話を聞きたい職種別に

「職業講話」